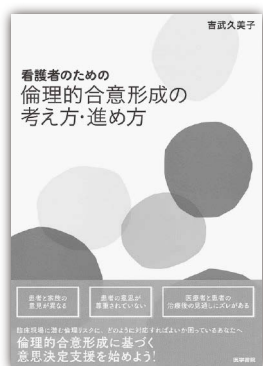


この本、いかがですか？

倫理リスクへの対応力が 高められる 1 冊



看護者のための 倫理的合意形成の考え方・進め方

吉武久美子 著
本体 2400 円＋税
B5 判／医学書院／2017 年

評者

加藤尚美
湘南医療大学

2000 年以後、医療の高度化・複雑化・科学化、患者の権利尊重、保健福祉への関心の高まり、情報公開の加速化、専門団体・学会の倫理に関する取り組み等に伴って、倫理教育も重要視されてきた。

昨今では、日本助産評価機構で行なわれているクリニカルラダーレベルⅢの認定申請に必要なステップアップ研修の項目の 1 つとして、助産倫理の受講が必須とされている。このような中で「看護・助産倫理」についての論文やテキストも多く出されているが、なぜかわかりにくいという声を聞く。そこで、タイムリーにも本書が発刊された。

助産師でもある著者は長年にわたり、広く倫理学、医療倫理と合意形成の重要性、意思決定

の重要性について研究され、多くの発表がある。倫理をとらえるにあたっては、必ず看護者の意思決定、あるいは日々の行為と結びつけるように述べている。学びの過程や、倫理的合意形成に基づく意思決定のプロセスならびに臨床現場に潜む倫理リスクにどのように対応することがよいかなど、事例を紹介しながら解説している。

倫理的合意形成が何かを解説する第 1 章は 4 つの項から成り、第 1 項は「医療における倫理の捉え方」で、倫理とは何か、医療者の行為と倫理、多様な価値観と意思決定、倫理理論、倫理綱領が述べられている。特に日本や西洋にみる伝統的な倫理思想については興味深い。第 2 項は「医療における合意形成とは何か」である。著者は合意形成は「関係者の間で最善策を探し続けるプロセス」と定義しており、最善の支援のためには合意形成のプロセスが必要であり重要であることがわかる。第 3 項は、「医療における意思決定支援と合意形成」である。1980 年代後半からインフォームドコンセントの考え方が定着し、医療者とさまざまな支援が必要なクライアントとの間において、意思決定支援が重要となったが、さまざまな意思決定モデルと合意形成を比較している。第 4 項は、倫理的問題の発生を防ぐために倫理的問題に直面した時、看護者はどのように行動したらよいかについて述べている。明らかに倫理的問題に至ってなくても、「これでいいのか」「このままだと倫理的問題になるかもしれない」ということを倫理リスクという用語を使用して、対処していく必要性について解説している。

合意形成の学び方の重要なことは、話し合いである。本書では、その運営方法と事例に基づいた話し合いの方向性が示されている。早速、倫理的合意形成を臨床の現場で活用されるようお勧めしたい。

J